

研究課題名	下肢閉塞性動脈硬化症に対するカテーテル治療および外科的手術の安全性と有効性に関する多施設共同研究
研究責任者名	東広島医療センター 心臓血管外科医師 前田 和樹
研究期間	2020年4月7日～ 2021年12月31日
対象者	2010年1月1日から2019年12月31日の間に、広島大学および共同研究機関において成人の下肢閉塞性動脈硬化症に対して外科的なバイパス手術あるいはカテーテル治療を行われた患者さん。
意義・目的	閉塞性動脈硬化症に対する治療法は、ここ10年で劇的な進歩を遂げており、特に血管内治療においては次々と開発される新規デバイスによる成績の改善が期待される所です。その一方で、グラフト閉塞やステント閉塞など、閉塞を来す症例に対して、繰り返し治療を行うことにより、下肢切断を回避する努力が続けられているのも実際です。治療の選択に関しては、2007年に提唱されたTASC (Trans-Atlantic Inter-Society Consensus) IIガイドラインがGold standardとされてきましたが、近年のデバイスの進歩により新たなるガイドラインが模索されています。ESC (European Society of Cardiology) や SVS (Society of Vascular Surgery) では新たなる治療ガイドラインが提示されました。治療法は多様であり、複数の病変を有していることが多いためその治療法の組み合わせも多様です。このためそれぞれの施設における各術式とその組み合わせの症例数は少なくなります。実際に、下肢閉塞性動脈硬化症に対する検討において、近年の手術術式同士の比較や、カテーテル治療と手術の詳細な比較のデータで報告されたものは少ないのが現状です。そこで、広島大学関連病院での症例を集積することにより、閉塞性動脈硬化症に対する下肢バイパス手術あるいは血管内治療の実験的な症例数や治療成績を把握し、術式間での長期成績を比較し、その有効性と安全性を調査し評価することにあります。
方法	大学病院心臓血管外科受診により作成される診療録情報（カルテ）を使用して研究を行います。通常の診療にて得られるデータのみで研究を行いますので、患者さんの体への負担はありません。術前データ、手術データなどを術後経過と比較検討して研究を行います。
共同研究機関	JA広島総合病院心臓血管外科 土谷総合病院心臓血管外科 東広島医療センター心臓血管外科 尾道総合病院心臓血管外科 県立広島病院心臓血管外科 福山循環器病院心臓血管外科 安佐市民病院心臓血管外科 広島大学に情報を集め広島大学（研究責任者 高橋信也）が解析します。
試料・情報の管理責任者	広島大学 教授 高橋信也
個人情報保護について	調査内容につきましては、プライバシー保護に十分留意して扱います。情報が個人を特定する形で公表されたり、第三者に知られたりするなどのご迷惑をお掛けすることはありませんのでご安心く

ださい。

研究に資料を提供したくない場合はお申し出ください。お申し出いただいても不利益が生ずることはありません。

問合せ・苦情等の窓口

〒739-0041 広島県東広島市西条町寺家 513 T e l : 082-423-2176

東広島医療センター 心臓血管外科医師 前田 和樹